



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくらい内
TEL&FAX:0744-43-7773
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail: lets@some.jp

令和2年5月

うるわし通信

コロナウイルスによる学校休業で！

～特別支援学校の一律休校に困惑の保護者、きめ細やかな施策が必要～

新型コロナウイルスの拡大防止策として全国の学校教育施設が休業になっています。突然の休業措置になって、保護者の中には戸惑いと大きな不安が出されていることは、この間さまざまに報道されています。今回の全国一斉措置には、特別支援学校や小・中学校の特別支援学級の子ども達も含まれており、多様な障がいを持っている子ども達が登校出来なくなり、急に家庭でのケアが求められる状況となり、家庭負担が増えています。

私達は、本年2月に「卑弥呼の里芸術祭作品展」を通じて、障がいを持つ子ども達の保護者の方や福祉事業所の方々とつながりを持つことができました。そして、今回の学校教育機関の一斉休業措置について、関係者の方々が対応に非常に苦勞されていることを伺いました。読者の方やその周りの方でも、そのような声を聞かれる場合や実際に対応されている方もおられると思います。

また、千葉県の入所の知的障がい者施設で、集団感染が発生したこともあり、通所の福祉事業所でも感染者が出れば、施設の休所に直結することへの心配もされています。

長期休業で、障がいを持つ子ども達が登校できずにどのような生活を送っているのかについての情報がほとんど紹介されていないので、インターネットで調べてみると近府県では、京都新聞が京都府内と京都市、そして滋賀県での特別支援学校の子ども達の様子を報道していました。記事では京都府内の特別支援学校（14校）では、特別な事情がある場合に児童生徒を受け入れている、京都市立（8校）では、半数の学校でスクールバスや給食を継続しているとのことでした。

奈良県内の特別支援学校でも、特別な事情のある場合に、子ども達の受け入れを実施されていることを伝え聞いていますが、このように急な場合の対応を、家庭に求められるのでは安心できません。子ども達の障がいの程度や保護者の家庭状況を踏まえ、家庭での負担を軽減できる具体的な方策が求められています。

その為にも、当事者・保護者の声を実現できる方策や実施事例などを積極的に伝え、きめ細やかな施策を見出していくことが必要です。引き続きこの事について、伝えていきたいと考えています。

（楠木 克弘）

【お知らせ】『食の安全・安心』第1回うるわしの桜井をつくる会セミナーは、新型コロナウイルスの拡大防止のため、5月29日金曜日の午後1時30分～3時（予定）に延期させて頂きました。会場は、桜井駅南口エルト桜井交流室1・2で開催いたします。既に申し込みを頂いた方は、当日お越しく下さい。新規参加者の方は、申し込みをお願いします。

申込は、FAXで0744-46-3400まで。氏名・住所・連絡先電話を明記してください。

桜井市市民活動交流拠点で学んだこと



桜井市市民活動交流拠点でこの3月まで勤めていた高田と申します。

私は、平成29年12月から令和2年3月までの2年3か月、登録団体の皆さまをはじめ、市民協働課の皆さんの支えもあり、交流拠点の職員として、本当に貴重な経験をさせていただきました。この経験の中で、私が学んだことが2つあります。

①「トライ＆エラー（試行錯誤）に挑むこと」

市民活動交流拠点のリニューアルオープンに向けて、「月一回開催の運営協議会の参加団体(者)の減少」「開催内容（各団体の活動報告を行った後、市の出前講座を受講する）のマンネリ化」などの課題を解決して交流拠点の魅力を高めるこのプロジェクトを、私はトライ＆エラー（試行錯誤）により進めました。

このなかで、魅力ある交流拠点にするためにはどうすればよいかを、登録団体（交流拠点に登録している団体）の皆さまと一緒に試行錯誤し、グループワークや、学生との交流、有志による企画委員会の設置など、新しい取り組みを取り入れながら検討を進めました。私はこのトライ＆エラーを行うなかで、力を合わせて困難を解決に導く方法を学ぶことができました。

人は、新しいことに挑戦するとき「失敗するのが怖い」と考えてしまいがちですが、その気持ちのままでは先へは進めません。私は、新しいことにトライ＆エラーで取り組むことで、失敗もあるなか最終的に成功へと導くことができ、挑戦する自信が持てるようになりました。

②「続ける・楽しむ・自由な参加を重視することの大切さ」

エルト桜井2階（まほろばセンター）に移転してからは、他の登録団体とのつながりや団体の課題・問題点などについて、気軽にざっくばらんに話したり、意見交換したりして交流を深めていく「登録団体交流会」が開催され、私も毎月参加しました。

交流会への参加を継続するなかで、続けることの大切さ、悩みや課題、思いを互いに聞いて、「こんなことしたいね」と言い合ったりできるような気軽にざっくばらんに楽しむ場づくり、強制しない自主的な参加を重視することの大切さを学びました。

この2つの経験を得て、挑戦する心がまえや一歩踏み出すこと、継続は力になることが重要だと思われされました。



まほろばセンター2F「桜井市市民活動交流拠点」

今後、地域では「つながり」が今まで以上に必要になると思います。そこで、私は「つながる地域づくり」を提言します。私もこれまでに学んだことを活かし、地域の多様な関係者の「協働・共働」と他地域との連携することで地域のためになにができるかについて、「挑戦」と「継続」をしながら、模索していきたいと思っています。（高田 直裕）

地域歴史学習会の取り組み

万葉のふるさと桜井はヤマト王権発祥の地とされています。また、「万葉集発耀の地」、「相撲発祥の地」、「芸能創生の地」、「仏教伝来の地」でもあります。さらに桜井市には山の辺の道をはじめ、神社仏閣、路傍に64基の万葉歌碑が建立されています。これらは昭和47年から当時の桜井市長と桜井市出身の文芸評論家保田與重郎氏等の呼びかけで、川端康成氏をはじめ昭和を代表する文人墨客から万葉歌の揮毫をいただき建立が始まりました。

うるわしの桜井をつくる会は平成27年度から桜井市立小学校6年生の児童を対象に、学校の周りに残る万葉歌碑をはじめ、貴重な文化遺産を子供たちの目で確認してもらい、地域に誇りをもてる子供たちに育つことを願って、約2時間の「地域歴史学習会」に取り組んできました。校外学習に併せて万葉歌碑の写真パネルを制作し、1週間程度校内に展示し、子供たちの理解を一層深めていくことにも努めています。さらに中学校にも1週間展示し、生徒たちの啓発にも取り組んできました。

参加した子供たちの感想文の一部を紹介します。

●小学校の校歌に「都」という歌詞が出てきましたが、都ってどこにあったんだろうと考えていました。磐余池についてときボランティアガイドの方から「昔はここに四つの都があった」と聞き驚いた。

(安倍小学校)

●私が一番驚いたことは東京にも行くような国宝が小学校区内にあることです。聖林寺の十一面観音菩薩はアメリカの人が『すごい』と思うほどすばらしい国宝なんだと思いました。

(桜井南小学校)



上之宮遺跡での学習風景



海石榴市での学習風景

●学校近くの河川敷には「海石榴市」というぶつぶつ交換をする場所があったことは知りませんでした。

またそれが日本最古の市だったことを知り驚きました。(城島小学校)

●白山神社の境内には雄略天皇の石碑や万葉集の一番目の歌碑があり、朝倉宮のこともよくわかりました。(朝倉小学校)

●三輪の有名なところは大神神社だけだと思っていたが、金屋の石仏が一回こわされそうになったことも教えてもらい驚いた。(三輪小学校)

また、2月8日(土)には桜井市教育委員会から推薦を受け「第10回世界遺産学習全国サミットinなら」に参加し、奈良教育大学で「地域歴史学習会の取り組みについて」桜井市観光ボランティアガイドの会細谷会長と共同で発表しました。今後は学習成果を活かし、子供たちから全国への情報発信を期待しています。(高瀬 安男)



うるわしの桜井をつくる会定時総会のお知らせ

日頃から、当会活動にご理解、ご協力いただき、誠にありがとうございます。
例年定時総会を開催しておりますが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、常任理事会(書面会議)の表決を得て書面会議とさせていただきます。つきましては、後日「総会資料一式」を送付させていただきますので、ご確認のうえ、書面表決書にご署名及び各議案への賛否をご記入いただき、ご提出ください。議案の可決につきましては、ご提出いただいた書面表決書のうち、賛成が過半数を超えた場合に可決とさせていただきます。何とぞご理解のほど、よろしく願います。
(会長 堀井良殷)

うるわしの桜井をつくる会10年の歩み2

平成22年3月14日に発足し、10周年を迎えるにあたり、過去の記録をまとめてみました。



平成29年5月12日 講演会「子どもの貧困にどう取り組むか」
講師 梅野正和 氏(奈良県子ども家庭課 家庭福祉係長)



平成30年6月10日 第8回定時総会
講演会「桜井に宮をおいた天皇」
講師 千田稔 氏(奈良県立図書館館長)



平成31年2月23日 第2回卑弥呼の里芸術祭
障害のある人もない人もともに in SAKURAI



令和2年1月25日 第9回新春交流昼食会
ソプラノ歌手梅谷裕子さんと桜井市歌を合唱

【編集後記】新型コロナウイルスの関係で、本会の様々な取り組みも変更が余儀なくなっています。「緊急事態宣言」は5月6日を1つの目途としていますが、昨今の急速な感染者増加はさまざまな今後の目途も確かなものではありません。学校の再開がどのようになるのか、医療現場は大丈夫か、仕事の先行きはどうか等々心配事は尽きませんが、踏ん張らなくてはなりません。人類は、パンデミックを克服してきたのですから。

21世紀の情報化・国際化の下での今回のウイルス拡散は、終息後にどのような社会のシステムが求められるのかを、私たちに問うているように感じます。ご自愛ください。
(編集子 K)

うるわし通信発行人
高瀬 安男
TEL:090-1678-9157